

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立伊万里小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「響け 伊小の会」の活動（地域との連携活動）に取り組んでいることで、地域への貢献度が向上している。</li> <li>不登校傾向（登校しぶりなど）児童や気になる児童については、全職員で共有し、校内における支援体制の強化を図っていくことを共通理解した。また、関係機関（SC、SSW、市福祉課等）との連携も今後も深めていく。</li> <li>保護者のアンケートの結果より、「家庭で、危機管理について、子どもに教えているか」、「宿題に目を通しているか」等の回答率が昨年度より低かったため、家庭での教育の役割等について育友会と連携しながら啓発していく。</li> <li>「働き方改革」について、具体策を講じ、よりよい職場づくりを目指す。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>『 輝け！ 伊万里小 』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人ひとりが伸びる学校</li> <li>○ 笑顔と活気にあふれる学校</li> </ul>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>— 『きらきら伊万里っ子プロジェクト』の推進 — &lt;7つの目標の具現化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 返事が響く</li> <li>○ 挨拶が響く</li> <li>○ 明るい声と歌声が響く</li> <li>○ 感謝の言葉があふれる</li> <li>○ 思いやりがあふれる</li> <li>○ 笑顔があふれる</li> <li>○ 活気にあふれる</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でのマイプランを共有するとともに、校内研修等での取組の促進を図る。	B	・各自が取り組んでいるが、日々の実践に追われ、共通理解というところまでには至っていない。 ・校内研究の授業実践の積み重ねにより、教師の指導力が向上している。	B	・本校の課題の共有はできており、授業を組み立てるときに活用している。	B	・伊万里小の子供たちのためにさらにながらばってほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○意欲的に取り組む児童の育成 ○「活用問題ができる力」が身につく授業の実践	○「学校は個に応じた指導をしている」と回答した保護者80%以上 ○12月の佐賀県小・中学校学習状況調査の「記述式」問題において、正答率50%以上	・児童の実態把握と個に応じた指導を充実させるための時間を設定する。 ・条件に沿って授業のまとめをしたり、作文をしたりする活動に各単元1回以上取り組ませる。(例:50字以内で、キーワードを使って、自分の考えを入れて等)	B	・休み時間、放課後などに指導の時間を設け、児童の充実感が高まっている。 ・週末の課題や朝の伊万里っ子タイムの時間に記述式の課題に取り組ませることで、少しずつ抵抗感がなくなっている。	B	・校内研での取組により、活用問題を授業に取り入れる機会が増え、学習状況調査の記述式問題では、県平均を上回っている学年が多かった。 ・県調査では無解答の割合が県平均より高く、粘り強さや問題理解への手立てが必要である。	B	・宿題に使用されているプリントについて、イラスト等が現代の内容に合っていないので、内容のアップデートをお願いしたい。(例)1年生の国語プリントで、絵を見て名前を書く問題があり、「びょうぶ」は、今の子供たちにはなじみのない絵が散見され、つまづいている様子があった。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●「根っこ教育」の充実 ～「3つのあふれる」を中心に～	○「感謝の言葉や思いやりの言葉が増えた」と回答した保護者80%以上 ○「市作成の『いのちの教育指導資料』と『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している」について、肯定的な回答をした教師70%以上	・各学年の企画書の中に具体的方策を明記し実践していく。 ・児童会活動で、「やさしさいっぱい伊万里小」にするための話し合いを行い、全校で取り組んだ。 ・『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している」については、毎朝全校放送にて行動を啓発している。各学級でも朝の会等で活用するようにしていきたい。	B	・各学年でそれぞれの具体的方策をもち、実践している。 ・児童会活動で、「やさしさいっぱい伊万里小」にするための話し合いを行い、全校で取り組んだ。 ・『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している」については、毎朝全校放送にて行動を啓発している。各学級でも朝の会等で活用するようにしていきたい。	B	・児童の約90%が、「人がいやがることは言わない」と回答している。 ・教師の約65%が肯定的な回答をしている。 ・『いのちの教育指導資料』の活用を呼びかけていきたい。「伊万里っ子しぐさ」については、朝の会での活用をうながしたい。	B	・心の教育は、命につながると思っており取り組んでほしい。 ・各家庭で一番大切にしてほしい部分だと思う。家庭でも子供と一緒に笑ったり泣いたりスキャンシップを取ってほしい。	・道徳教育推進教師 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対応等」について組織的対応ができており」と肯定的に回答した教員80%以上	・いじめの対応についての研修を適宜行い、職員の意識を深めていく。	B	・気になる言動については、生徒指導主任へその都度報告があるが、いじめについての職員研修を実施する予定である。 ・いじめ防止等について組織的対応を行うように学年主任が意識して対応することができた。	B	・気になる言動については各担任が管理職に相談の上、養護教諭、教育相談担当、生徒指導が随時関わりながら指導にあたった。また、毎日の放送で自己肯定感を高める内容の声かけを行った。	B	・いじめ0を目指して取り組んでほしい。 ・いじめはあってはならないが、人間同士の相性や考え方の相違などささいな行き違いから発展することもある。いじめになる前に子供たちの様子をつぶさに観察し、声をかけ今まで同様、継続してもらいたい。	・人権・同和教育主任 ・生徒指導主任 ・各学年主任
	◎全校児童が、地域とつながる行事等へ参加し、郷土愛を育む教育活動	○「自分の住む町が好きである。」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・地域の教育資源や人材を活用した教育活動(体験活動)を実施したり、地域とつながるプロジェクトを実施したりする。	B	・コロナ禍のため地域と連携した「テカピカ運動」が実施できなかった。ただ、伊万里地区区長会が参加を予定するなど、活動の輪が地域の中でも広がっている。	B	・「自分の住む町が好き」「だいたい好き」と答えた児童が約92%であった。トントントン学習会を継続して行っていき、地域を知り誇りに思う児童を育てていきたい。	B	・地域(いまり)を愛し、誇りに思う子供に育ててほしい。 ・伊万里市全体での子供たちへ何かしているという行動が足りない気がする。	・教頭 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施し、適宜指導していく。 ・保健だよりを発行する。	B	・学校栄養職員による食育指導を中学年での実施を継続している。合わせて全学年への給食指導を日常的に取り組んでいる。 ・生活状況調査、食に関する意識調査は、今のところ実施できていない。	B	・「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童が約96%。 ・「朝食をとらずに登校している」児童が約6%と昨年度より増えた。 ・給食の残棄は殆どなく、よく食べている。	B	・家庭での食習慣はなかなか入り込めないとこもあり、難しい。難しいが何か手立てを考えていきたい。	・保健主事 ・学校栄養職員 ・食育推進担当者
	○「運動習慣の改善や定着化」	○外遊びをよびかけ、運動場で毎日遊ぶ児童70%以上	・昼休みの外遊びの励行や、職員自身も運動に親しむ意識を向上させるような取組を保体部が中心になって行う。	C	・外遊びをする児童が固定化してきている傾向がみられるので、外遊びを推奨していきたい。 ・外遊びができていない児童70%ほど。	B	・寒さに負けずに外遊びをする姿が多く見られた。 ・室内で過ごす児童が固定化して、その児童は、ほとんど外に出て遊んでいない。	B	・外遊びは、ぜひもつとしてほしいと願っている。	・体育主任(保体部)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・定時退勤日を設定する。 ・部活動(コーラス部)の休養日を設定する。	C	・毎週金曜日を「定時退勤日」に設定し、職員室前面の黒板や入り口にカードを掲示し呼びかけを行い、意識する職員がいる。しかし、時間外勤務が長くなる職員もおり、業務の効率化も含め指導を行ってほしい。 ・コーラス部は、毎週水・金・日と休養日を設け、徹底することができた。	C	・全職員の時間外勤務時間に対する意識が変わり、退勤時間が早くなってきた。ただ、定時退勤日の徹底がまだまだである。 ・部活動(コーラス部)の休養日はきちんと設定した。	B	・働き方改革をもっと進めてほしい。 ・学校の働き方改革が進まない、先生方の体と負担が心配である。 ・働き方改革は、先生方にとってとても大切なことだと思う。 ・働き方改革は進んでいるのだろうか。もう少し負担が少なくなるように効率化を図ってもらいたい。効率化と簡素化は別なので、共有しやすいフォーマット作りも大切だと思う。	・管理職
	○学校行事や業務内容等の改善	○「働き方改革ができており」と肯定的に回答をした教員70%以上	・校内・校外行事の見直しや通知表(あゆみ)の作成について検討、改善していく。	B	・通知表(あゆみ)については、昨年度見直しをしたことにより、かなり見直しを行うことができるようになった。また、校内LANの中に各学年の資料を入れてお互い利用していることや職員会議のペーパーレス化も効果を奏している。	B	・各人がこれまでに蓄積してきた資料のデータ等をお互いに、交換し合うことによって効率化が図れていると感じる。ICTを有効に活用することによって、今後更に業務内容を見直していきたい。また、タイムマネジメントの必要性等も問うていきたいと思う。	B	・今までも十分にながらばっていただいていると思う。	・管理職 ・教務主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○「きらきら伊小っ子プロジェクト」の推進	○7つの具体的な目標の実践 ・返事が響く ・挨拶が響く ・明るい声と歌声が響く ・感謝の言葉があふれる ・思いやりがある ・笑顔があふれる ・活気にあふれる	○「返事や挨拶がきちんとできている」と回答した児童90%以上 ○「『ほかほか言葉』や『ありがとう』がよく言えるようになった」と回答した児童80%以上	・7つの目標について、校内やコミュニティセンター等に掲示する。 ・「ほかほか言葉運動」と「ありがとう運動」を展開する。	B	・7つの目標を教室や校内に掲示し、意識化を図った。全員で取り組んでいる。 ・児童の挨拶が声が元気になってきた。」という地域の方からの声を聞くようになってきた。 ・児童会活動で取り組んだことで、「児童は、『ほかほか言葉』や『ありがとう』等、思いやりの言葉を使おうという意識が高まった。	B	・返事や挨拶が「できている」「大体できている」と答えた児童が約88%。 ・「児童は、返事や挨拶がきちんとできている」と回答した教員は約72%となった。 ・「ほかほか言葉」や「ありがとう」が「よく言える」「大体よく言える」児童が約90%。	B	・「愛のある言葉」が子供たちにとって一番大切だと思う。 ・登下校の見守りを行っているが、見守り以外に会ったときに気付いた子供たちから挨拶してくれるとお互いに見ていることが実感できる。	・各学年主任 ・教頭
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議を開催したり、情報共有の機会を設定したりする。	B	・「気になる子」の研修やケース会議等を開き、職員全員で共通理解して取り組んでいる。 ・「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員70%。	B	・「気になる子」についての共通理解の場を、月に2～3回継続的に実施することができた。 ・「特別支援に関する専門性の向上」に関しての研修をもっとしたかったという意見があった。 ・個に応じた対応をしていくための個別の支援計画を計画的に立て、評価できていると答えた教員がほぼ100%となった。	B	・先生方の日々の活動に敬意を表したい。	・特別支援コーディネーター ・教育相談主任
○地域・保護者との連携	○家庭での役割や責任を明確にしていく ○コミュニティ・スクールの周知と連携活動の推進	○家庭での教育についてのアンケート(特に、朝食、家庭学習、あいさつ)の回答が、昨年度結果以上 ○コミュニティ・センター行事や地域行事への参加率が一昨年度以上	・家庭学習アンケートを実施し、実態を把握したり、「家庭学習のすすめ」を発行したりする。 ・コミュニティ・センター行事や地域行事への参加を促す。	B	・家庭学習アンケートを12月に実施し、現在分析中である。 ・コロナ禍の中、できる範囲での行事の参加を勧めている。	B	・家庭学習はできているが、学習時間が短い。 ・取組に個人差が大きく、取組内容の指導が必要である。 ・地域行事への参加は制限があり、十分ではなかった。	B	・もっともっと地域の行事への参加や活動を活発にしてほしい。 ・コミュニティセンターの行事に積極的に協力していただいている。	・校内研(家庭学習部) ・育友会担当者
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の状況が続き、学校の様子を保護者や地域の方々に実際に見ていただく機会がなかった。今後、状況次第ではあるが、自粛していた取り組みを行い、地域と繋がる活動を活性化していく。</li> <li>・「いじめの未然防止、早期発見、対応」については、今後も職員の意識をさらに高めていく。</li> <li>・啓成中学校区のコミュニティ・スクールが始まったが、地域との連携を進め、深めるための手立てを考え、行っていく。</li> </ul>								